ロープテック関の SRT 知恵袋
ロープシステム体系

関 治 (Osamu SEKI　ロープテックジャパン代表　京都府在住)

ロープを使った昇降方法にはさまざまな方式がある。それぞれ、活動する分野にあわせて合理的に研鑽されたロープシステムが存在する。主なロープシステムと特徴を下記に示す。

ロープシステム	用途	特徴
SRT	洞窟や山岳、橋梁など難所での高所作業	搬入・使用できる装備が限られているためラインは 1 本
SRT ホイスト	洞窟や山岳、橋梁など難所での高所作業	搬入・使用できる装備が限られているためラインは 1 本
チョークヒッチによるリギング	手が届かない遠隔支点に対してのロープの設置・撤去	遠隔地からの設置撤収のためポイントは 1 点
DRT	手が届かない遠隔支点に対してのロープの設置・撤去	遠隔地からの設置撤収のためポイントは 1 点
DdRT	木登り・樹上伐採作業	遠隔地からの設置、限定された支店環境のためポイントは 1 点
産業用ロープアクセス (IRATA・PETZL)	簡易な壁面での高所作業やロープの保護に配慮がしにくいような工事作業など	装備が潤沢に搬入・使用できる環境のためラインは 2 本

・SRT(シングルロープテクニック)

洞窟や山岳、橋梁など多量の装備の搬入が困難で、迅速な行動が求められ、使用できる装備量が限定されている状況に適したロープテクニック。

2 ポイント 1 ラインで構築し、ロープは流動せず固定してリギングする。装備の搬入やリギングが容易なビル壁面などではラインも二重化すると安全性が増す。

・SRT ホイスト

主に要救助者の引き上げ、吊り下ろしなどレスキューに使用するロープテクニック。

SRT に準ずるテクニックのため、要救助者単体でのホイストも行うが、装備に余裕がある場合や、伴走者を配置する場合にはバックアップラインを追加することも多い。

2 ポイント 1 ラインで構築し、ロープは流動し要救助者を昇降させる。

・チョークヒッチによるリギング (遠隔地からのリギング・デリギング)

手が届かない支点に対して、離れた所からリギングやデリギングするテクニック。

支点に対してロープを山形ダブルで配置し、ロープの中間部分に作ったアルパインバタフライに荷重側ロープを通してチョークヒッチを作る。原則としてロープだけで作る。

ロープを通すのが煩雑な場合はアルパインバタフライにカラビナを使って荷重側ロープをクリップしてもよいが、ゲート部の横荷重に対応した PETZL の Bmd や DMM ロックセーフ ANSI を使用する。

手が届かない場所からのリギングのため、取得できる支点が 1 ポイントになることがある。

支点が堅牢であることを確認してから使用する。

ロープは流動せず固定してリギングする 1 ポイント 1 ラインのテクニック。

SRT

SRT ホイスト

チョークヒッチによる
リギング

▲ Bmd

▼ロックセーフ ANSI